

第3回 富士市立東小学校における学校教育の未来を考える会（会議要旨）

- 1 開催日時 令和5年7月19日（水）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 富士市立東小学校1年教室
- 3 発言要旨 ※参加者の発言は、1回のやりとりにつき1段落で、要旨としてまとめます。
【凡例】「・」…参加者の発言 「⇒」…事務局の回答や発言

開会

<事務局より>

- ⇒「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」の説明
- ⇒平成元年度から令和9年度までの東小学校の全校児童数推移の説明
- ⇒東小校区と須津小校区の0歳から中3までの学年ごとの児童生徒数の説明
- ⇒学級編制の標準数及び複式学級についての説明

<質疑応答>

- ・東小学校はかなり前から1学級であった。「1学年2学級が適正である」と定まったのはいつか。
⇒国が「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定したのが、平成27年であり、それを受けて富士市が「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定したのが、令和2年である。
- ・教員数が不足しているという話があったが、そもそもどうして教員が不足しているのか。
⇒教員が担う業務が多く、「教職は勤務形態や勤務状況がブラックである」といった報道がされ、学生が教職を目指さなくなっていること等が主な原因と考えられる。
現在、富士市でも教員の欠員が生じている。今までは複式学級対象となった場合、市の負担で教員を配置し複式解消をしてきたが、このまま教員不足の状況が続くと、教員が確保できず、複式解消ができなくなることも考えられる。
- ・児童数が少なすぎて複式学級の対象になると、環境が大きく変わり、学習環境の質が下がってしまう可能性がある。その場合、ICT機器を活用してリモートで須津小と一緒に授業を行うことはできないのか。
⇒可能だが、対面で行えればそれに越したことはない。特に低学年の場合には、実物を見

たり、直接本人と出会ったりして、実感や共感を伴う活動を大事にしたい。

・どの学区も児童生徒数が減少しているとは思いますが、学区の見直しはできないのか。

⇒子ども会やまちづくり協議会との関係、災害時の避難場所など、通学する学校と生活する行政地区とが異なると、混乱が生じることが予想されるため、現段階では学区の見直しは考えていない。

5年後には浮島地区、須津地区合わせてやっと2クラスになるかどうかの児童生徒数になる。仮に学区を再編しても1クラスずつの学校となるうえ、さらに児童数が減少していくことになろう。

・浮島地区から須津地区まで通うとなると4km 近くある。荷物もあることを考えると、今の子どもたちは歩けないだろう。公共交通機関はバスがあるが、1時間待っても来ない。熱中症や冠水時の登下校なども心配である。

⇒小学生の低学年が徒歩で通うには遠いので、仮に須津小に編入統合となった場合には、何かしらの通学支援が必要であろうと考えている。

ちなみに、大淵第二小が編入統合するに当たっては、通学支援としてスクールタクシーを手配している。行きは旧大淵第二小発、帰りは自宅で引き取り人に引き渡すまでを行っている。

・旧大淵第二小のスクールタクシーには、何名が乗車しているのか。

⇒20名程度である。学年によって下校時刻が異なるので、行きは1便だが、帰りは各学年の下校時刻に合わせて運行している。

また、放課後に旧大淵第二小学校前の富士本児童クラブに行く児童については、帰りは児童クラブまでとし、その後、保護者が児童クラブに引き取りに来ている。

・スクールタクシーは、どこかの自治体のモデルを参考にしたのか。

⇒どこかの自治体を参考にしたわけではなく、独自に構築した形である。

・勢子辻の子どもたちにも同じ対応か。

⇒勢子辻地区には、現在就学時期に当たる児童生徒は住んでいない。

・学区の見直しは考えていないということだが、学区を見直した方が児童数確保ができるのではないか。教育委員会にとって複式学級になることの方が、学区の見直しよりいいのか。

⇒複式学級となる措置は、児童数によって法律で決まっているので、教育委員会にとって良い悪いといった話ではない。

- ・政府が様々な少子化対策を実施していくと報道が言っている。子どもが減っていくという減少論だけでなく、「こうやって増やしていこう」という話があってもいいのではないか。
⇒教育委員会は学校現場をどうやって豊かな教育環境にするかを考え、施策にするのが役目である。子どもを増やすための政策を教育委員会が計画・実施することはできない。
- ・先進的で優れた教育を行うことで、他の自治体からそうした教育を受けたいと、転入者が増えるかもしれないのでぜひがんばってほしい。
- ・旧大淵第二小のスクールタクシーは、今後ずっと続けていく支援なのか。
⇒「編入統合をした学年の児童が卒業するまでは」ということで行い、それ以降については、その時に見直し、検討していくとしている。その間は、旧大淵第二小校区の児童で、新たに就学することになった児童も乗車できる。
- ・小中一貫教育の流れがあると思うが、同一敷地内の校舎となるように聞いている。須津小と東小、須津中は一つのグループだと思うが、将来的に一つの校舎になるといったことは考えられるのか。
⇒小中一貫教育は令和6年度から、全ての中学校区で完全実施になる。小中一貫教育は、地区の子どもたちを、小中同じ教育方針で育てていくという教育理念の方針であり、校舎や施設を一つにするという方針ではない。
学校施設を一つにするという計画はあるのか、という主旨の質問であれば、まだその計画はない。ただし、今後改修等が必要となった場合には、小中一貫教育をより推し進めるために、施設や校舎といったハード面も一つにすることも考えられる。
学校施設は短くても65年、長ければ80年使用する方針である。東小学校は、現在築44年であり、あと20年程度は使用できる。
- ・現在、東小学校は同学年に児童が1桁程度である。1桁の同学年で6年間過ごすことが果たしていいことであるのかと思う。中学に行くと、同じ小学校出身はクラスに2～3人になってしまうので、いじめにあわないかも心配である。実際に東小学校を卒業した20代の人たちに、実際にどんなふうに思っているのか、アンケートを実施してはどうか。
⇒実際の卒業生から、「全校児童は少なかったけれども良かった」という声を聞いている。
今後20～30代の方々を始め、地区の方々にアンケートをとることもあろうかと思うが、もし実施するならば、複式学級のことも含め、まずは子どもたちやこれから通わせる保護者に聞く方が筋だろう。
大淵第二小は、学年によって実施回数は異なるが、編入統合前年に大淵第一小の授業に参加したり、学年間交流イベントに参加したりして、交流活動を合計27回実施した。また、年明け1月には朝から下校まで一週間、大淵第一小で生活する期間を設けると

もに、スクールタクシーの試行も併せて行った。そうした取組もあってか、編入統合した大淵第二小の子どもたちは、うまく馴染めていると聞いている。

- ・もし、須津小と統合した場合、まちづくりセンターが各小学校区に一つあるというのが富士市の特長だと聞いたことがあるが、それはどうなるのか。統合されると、防災拠点や避難所としての体育館はどうなるのか。

⇒大淵第二小では跡利用をどうするのか、地区の方々と一緒に検討している。地区からは「どのような使い方でも、避難所の機能を残してほしい」という意見があったので、それを叶えられるような募集要項となるように検討を進めている。

東小学校が仮に編入統合した場合も、大淵第二小学校と同様に、避難所機能を残しての活用方法を探っていく。また、まちづくりセンターや浮島地区自体は現在と変わらない。

- ・今日は「統合時期は〇〇です」と言われると思っていた。このまま児童数が減っていくことは免れないだろう。編入統合等の最終的な決断はどこがするのか。

⇒最終的な決定は、教育委員会会議で方針を決め、市議会で決定することになる。

- ・大淵第二小も吉原東中も同じような手順か。

⇒同じである。

- ・大淵第二小は納得していない人もいたが決まってしまったと耳にした。東中学校においていえば、体育館を建てたばかりだった。それでも編入統合が決まってしまうのか。

⇒決定前に地区への最終提案は、教育委員会から行った。全ての方から賛同が得られたわけではないのは事実である。小さなコミュニティであるから、話し合いを重ねれば重ねるほど、互いの意見の違いが明瞭になり、地区や保護者間の分断を生んでしまったり、それを恐れて率直な意見を言えない状況になってしまったりする恐れがあった。そのため、編入統合をするという方針提案は教育委員会が行った。

⇒かつて、穆清中学校と吉原第三中学校とを統合しようという計画が旧吉原市であった。しかし、計画はうまく進まず、地区同士の折り合いが悪くなったと聞いている。さらには、学校統合に関する賛否を巡って住民の意見が分かれ、非常に嫌な思いをされた方々がいたとのことである。私たちの役目は子どもたちの教育環境を良くすることであるが、地区に混乱を生じさせたくない。何かの方針等の決定によって、責められるのであれば、教育委員会だけにしたい。

- ・教育委員会会議は、年に何回ぐらいあるのか。

⇒毎月1回、20日前後に開催している。傍聴は自由にできる。先日は、東小学校で教育委員会会議を開催させていただくとともに、「教育委員と語る会」を開催し、先生方と

懇談を行ったばかりである。開催の詳細は市のホームページや「広報ふじ」で日時や場所を公開しているので、ぜひ足を運んでほしい。

- ・先日、「春山まつり」という地区のお祭りが行われたが、中学生の娘が須津中の友だちを連れてきた。自分の地区のまつりに他の学区の友達を誘うなんていいなあと思った。
- ・毎年、4月は中学生がまとまって登下校するが、そのうち、行く時間や帰る時間が徐々にバラバラとなり、普通に通うようになっていく。そのうえ中学校に上がるまでに交流活動を頻繁にやってくださっているのだから、人間関係はそんなに心配していない。
- ・むしろ「東小学校ならでは」の校風がなくなってしまうことが惜しい。ここでしかできない授業がいっぱいあるのと思う。
- ・先ほど、複式学級や教員不足の話があった。教員免許を持っているけれど、教員でない方もいっぱいいる。教員を定年退職された方が免許不要の支援員として働いている方もいる。特別教員免許を発行するというニュースも見た。教員をやりたいというやる気のある人はいると思う。もっとPRして教員を発掘することができれば、複式学級になったとしても補填できるのではないか。

⇒様々な支援員が既に実際に配置されているが、大きな学校であっても1～2人程度であり、学校現場はとにかく手が足りていない。担当はとにかく電話をかけて、免許保有者に打診している。60代はもちろん、70代にも当たっている。

- ・教員免許は、小中の免許状をもっていないとダメなのか。高校の免許状ではダメということか。

⇒教員免許については、小学校の教員は小学校免許が、中学校は中学校の教員は免許が必要であると決められている。ただし、上位校種の教科免許を持っていれば、当該教科の授業を担当することはできる。

- ・高校免許を持っている人は多いが、なぜ小中の免許を持っている人は少ないのか。

⇒一般の学部であっても、多くの場合中高の免許を取得することはできるが、小学校免許を取得するには、基本的には大学で教員養成課程に入学する必要がある。そのため、大学選択の時点で、小学校の教員免許状が取得できる学校や学部を選択していなければならず、人数が少ないのではないか。

- ・大淵第二小の児童はどれくらいいたのか。

⇒一昨年は全校で30人程度、昨年の全校児童は23名で、1年生はいなかった。

- ・まちづくりの観点から考えれば、人が集まる施設がなくなれば地域の元気がなくなることは、今までの事例から分かっているので、できればこのまま残してほしい。

- ・調整区域における地区計画によって地区の住民が増えれば幸いだが、効果は早くても 10 年以上かかる。
 - ・東小の創立時に全校で 300 人はいたが、この校舎ができるまでは 4 km ぐらいを歩いて浮島小に通っていた。道の安全性が担保されれば歩けないことはないと思う。
 - ・昭和 31 年に、浮島 3 部落が独立して旧吉原市に合併したが、かなり地区でもめた。校区再編、地区再編という意見が出たが非常に難しいと思う。この地区単独の取組で、いかに地区を盛り上げるかを考えた方がいい。
-
- ・荒久と石川の付近で、(浮島西区の分村及び合併に関する事) かつて争いごとがあったと聞いた。小学校は浮島にあったが、中学は根古屋の方にあったので、小学校の頃の 3 倍ぐらい歩いた。今の子どもたちがそれだけ歩けるとは思えない。
 - ・交通渋滞が頻繁に起きる現状で、特に低学年の 1～3 年生は心配である。さらに雨の時には冠水し、地区から出ることもできない。通学手段を何か考えなければならない。
 - ・沼津線が沼津市原までつながって交通の便が良くなれば、沿線で住宅が増えていく可能性もあるので、急いで統合しなくてもいいと思う。このまま学校がなくなってしまうと、家も建たなくなる。
 - ・これだけ人数が減ると、統合も仕方ないかなと思うが、もうしばらくは残してほしい。
⇒大淵第二小学校は 2 町内で成り立っていた。「学校がなくなると地域が寂れてしまう。跡利用については、地域が活性化し、にぎわいが創出できるような使い方をしてほしい」という要望が多数あった。
そうした地域の要望を踏まえて、事業者を募集している。何になるかは未定だが、コミュニティの核となったり、活性化に貢献できたりするような使い方を検討している。
-
- ・調整区域における地区計画は、町内会を中心に進めている。幹線道路から 50m 以内の地権者にアンケートを実施しているが、回答が戻ったのは 25% ぐらい。意思決定をするには最低でも 90% 近くの回答が必要になる。勉強会等でどこまで理解が進むかは不透明だ。
 - ・規定では根方街道と沼津線から 50m の範囲となっているが、その条件だと場所によって急に狭くなる。根方線と沼津線との間が 50m ないようなところもある。そうした状況でどうですかと言われても返答をしようがない。対象となる範囲を広げてほしいと答申しているが…。
 - ・エリアの検討はこれからの話になるだろう。空いている土地はどれくらいあるか、住む人がどのくらいになるかの推計も出さだろうが、まだ 4～5 年はかかるだろう。それまでにみんなの意識を高めていく必要がある。

<事務局より>

- ①今回のここでの発言要旨をWEBに公開していくこと。
- ②本年度、継続して開催していくこと。

以上2点を確認して閉会。